

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言対応にお見舞い申し上げます。
通信コーナーの巻頭言を昨年、一昨年、10年前と並べてみました。

昨年は「初夏の様相です。今上天皇が退位され、皇太子さまが即位されます。お祝い事により祝日となり、10連休の大型連休が始まります。1日に通信コーナーを書くのを早めて作成しています。このお目出度い機会に様々な行事を行って、令和の到来のお祝いムードを盛りあげています。商売?にも繋げようと知恵を絞っています。」

一昨年はと言うと「初夏の陽気となっています。2月には猛烈寒波と震え上がっていたが、3月の中旬に暖かくなり桜が狂ったように1週間以上早く咲いた。そして4月には真夏日となる暑さです。そんな中でも新緑の青葉が目眩しい爽やかな季節となりました。過ごしやすい季節は短いので、行楽等に楽しんでください。」

また10年前はと言うと、「昨年も4月は寒暖の差が激しく、夏を思わせる暑い日があるかと思えば、冬に逆戻りの日があったりして、変化が激しすぎると書かせていただきましたが、今年も昨年以上に寒い日が遅くまで続きました。マスクをしている人に花粉症ですかと訊くと風邪ですとの答えが返ってきます。皆さん体調管理を万全にして頂きたいものです。5月の連休は晴天で素晴らしい天候に恵まれそうですので、大いにお楽しみ下さい。」

と言うようにGWの楽しいことを主題として通信コーナーの巻頭言を書かせて頂きました。けれど、今年はそんな気分になれないですね。感染が蔓延してきて、ストレスで家族がギクシャクしてきて、多くの人が不安を抱えているかと思えます。テレワークなどで普段いない人が家にいるということでDVなんかも増えているとの話を聞きます。うつさない、うつらない、各自が気を付けるしかない。

コロナ問題が発生していない日本の10-12月のGDPが7.1%減少、米国の1-3月は4.3%減となりました。日本の1-3月のGDPはいくらになるであろうか?世界の経済がどこまで低下するのも見えていません。起こってほしくない事態だが、長期化した場合、経済的に何が起こるかを考えておくことが必要です。現在は実物経済の急停滞にとどまっているコロナ問題が、金融システムの不全にまで波及するか否かで経済の様子は大きく変わります。各国の政府と中央銀行が金融システムを維持できたと仮定しても、以下の4つの変化が起こる可能性があるとして楽天的な経済評論家山崎元氏はおっしゃっています。(1)アマゾン等の非接触型ビジネスの隆盛。(2)Zoomに代表されるオンライン会議のツールを利用した新しいエンターテインメントビジネスの発生。(3)「3密(密閉・密集・密接)」は敬遠されているが、クリアした安全保証型接触サービスへの需要。(4)長期化した場合、多くのビジネスが立ち行かなくなり失業率は未曾有の水準になるので、ベーシックインカム型経済への移行。利益よりも生き残り優先。

今回のGWはすべてのイベントや人の集まることを自粛してくださいと要請し、帰省を今回は止めてくださいと言っています。物の行き来が不自由となると生き残るために「地産地消」「自国調達」世界から安いものを調達するグローバル経済が見直されることとなります。最高のものが集う大都市がコロナショックで大きく様変わり、自給自足の出来る地方の農業にシフトするのではないのでしょうか?